

社会福祉情報・活動情報誌「きれい」



伊勢亀鈴会
ホームページは
←こちらから

福祉新聞
복지신문
WELFARE NEWS

VOL

153

創業80周年を迎えて

株式会社 伊藤製作所

会長 伊藤澄夫



草津市立
水生植物公園
みずの森

琵琶湖の雄大な自然に囲まれた植物園。四季を彩る珍しい草花やフラワーバスケットが美しい。他では見られない水生植物もあり、中でも様々な品種のハスやスイレンが楽しめる。

目
次

■巻頭インタビュー 1

創業80周年を迎えて

株式会社 伊藤製作所

会長 伊藤 澄夫

■なかま 7

元気の秘訣は何?

南勢就労支援センター 田中倉子 さん

■ハートフルリレー 8

わくわくジャム

第2南勢就労支援センター

ジャム担当 加納早由里

■春夏秋冬 9

行事・クラブ・活動紹介

■きれいトピックス 17

「伊勢市障がい者サポート企業・団体」認定

音楽療法

保護者総会

9施設合同大運動会

■きれいアートギャラリー 20

日中活動作品紹介

■きれいかいの動き 表3

新職員・人事異動他

表
紙
写
真
亀山公園 花しょうぶ園

亀山公園は元々亀山城藩主の別荘のあったところで、約4,000平米の花しょうぶ園には、およそ100種類、約12,000株の花しょうぶが植えられており、競い合うように美しく咲く。

創業80周年を迎えて

株式会社伊藤製作所会長

伊藤 澄夫



略歴

BIOGRAPHY

1965年立命館大学経営学部を卒業後、伊藤製作所に入社。1986年同社代表取締役となり2022年12月同社会長に就任する。順送りで金型メーカーの老舗企業であり、国際競争力のある金型製造技術の確立に努め、無人化、高速化、精密化を追求したプレス加工で卓越した技術力を誇る。

(社)日本金型工業会・副会長・国際委員長を歴任。中京大学特別栄誉客員教授、國立福井科学技術大学校名誉教授、神戸大学非常勤講師などを務めて後進の育成に寄与。2017年4月「旭日單光章」、21年1月「絆綏褒章」受賞。著書に「モノづくりこそニッポンの皆ニッポンのすごい親父力」、「日本製造業の後退は天下の一大事」がある。

INDEX

- 1 人の嫌がる仕事を
2 日本の「もの作り」は一流
3 社員育成は社員への感謝から
4 女性の雇用率が高い
5 飛行機の中でマジックを考える
6 金型製造を始めたきっかけ
7 四日市市内の小・中学校へ図書費の寄付を
8 残るはロケットと潜水艦
9 わくわくジャムを購入

今回は、株式会社伊藤製作所の代表取締役会長で中京大学特別栄誉客員教授の伊藤澄夫会長にお話を伺います。インタビューは鈴鹿社会的事業所まかせ太君の本間と同じく鈴鹿社会的事業所まかせ太君営業の濱口です。よろしくお願ひ致します。

Q1、今年は株式会社伊藤製作所創業80周年を迎えたとお聞きしました。会長の経営者としての根底は、先代のお父様の教えが大きいと、会長の著書から学びました。そこについて詳しくお聞かせいただけますか。

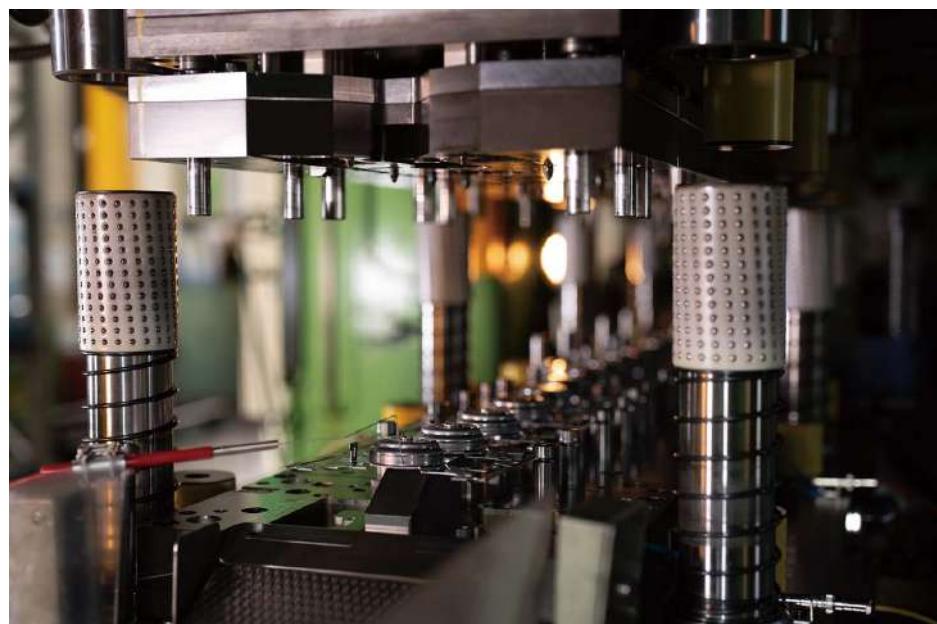
伊藤会長：父はずっと現場に入っていることが多く、無口で職人気質な人でした。そんな父から言われた言葉で覚えていいる言葉があります。「人の嫌がる仕事をしなさい。そして会社を大きくするなよ。従業員は50人以上は雇うな」と。私が「なんで?」と聞くと、「お前に会社を経営するだけの手腕はないと思う」と言されました。当時の私はその意味が理解できずにはいました。父の言う通り、その後30年は、従業員を50人以上にはしませんでした。28年前、新規の顧客からかつてないほどの大量受注をしました。これで予想される毎年の利益をすべてリースに充て、自動プレスの増設を図りました。

た。父から「社員を増やすなよ」と言われたことが、好結果を生みました。

Q2、同じく著書で日本の「もの作り」は一流と書いてありました、なぜそう思われるのかお聞かせください。

伊藤会長…日本の「ものづくり」は世界でも一流と言いましたが、今世紀に入り世界でも一流と言われる製品が減りつつあります。これは各国の追い上げと、日本の当局による働き方改革の実施によるものも理由のひとつだろう

(イ) 日本は地方が海に囲まれているため、国民は互いに助け合うことが定着しています。使う人の立場になつてものづくりをするのは日本人独特のものです。また後工程のことを考えながら自分の工程の仕事をやる考え方も日本独自のものです。



当時40台だったプレス機は25年後に105台となりました。月間数量の多い部品は金型と材料を付けっぱなしにして段取りを無くしました。若手社員でも生産が可能となつたため当時より売上高は4倍あまりに増加しましたが、社員の増加は20%増えたのみです。段取り替えをして稼働率を上げる従来の方式の逆を行つたところ品質、納期、コストで得意先から高い評価を頂ける会社となりました。

(ロ) 日本は資源に恵まれないため海外から材料を買い、それに付加価値をつけて海外に輸出することにより外貨を稼がなければ成り立たない国です。中国やアジアと比べ比較的賃金が高い日本で他国と同じ物を作つては割高になつてしまします。したがつてより性能のよい耐久性のあるファッショナブルな製品を作るよう各社とも日々努力をしています。



ミを拾う姿を見て多くの外国人が驚いています。海外から日本を旅行した皆さん、どの街に行つても道路にもゴミが落ちていなことを知つて、大谷さんの行動を理解したそうです。いつも職場を綺麗にし、機械の手入れなど充分に行うことで、良い製品ができると日本人は考えています。これが外国では絶対に真似のできない日本独特のやり方です。

(イ) 日本のものづくり企業は常に製品の改善を繰り返しています。それにより顧客の高い評価でリピートオーダーが頂けているのです。トヨタ自動車が30年の長きにわたり走行距離が2倍近くになるハイブリッド車を完成したことはこの良い例です。現在では世界中の自動車メーカーはトヨタには勝ち田がないと評価しているほどです。

Q3、「会長の経営の基本に「社員を大切にすること」とあります。具体的にどのようなことが教えてください。

伊藤会長：当時、私は子供にできる範囲で社員に喜んでいただけることをしなければいけないと考えていました。それは両親の行動をみて自分で自覚したように思います。父は終戦の年に少ない資本で小さな町工場をスタートしました。ものを作れば飛ぶように売れる時代であったが、中小企業では当時も人材難で苦しんでいたと聞いています。そんな中、入社してくれた社員をこの上なく大切にしていたようです。職人さんが働いてくれるからお前たちは食事もできるし、学校にも行ける。いつも彼らに感謝しなさいと、私と姉に言つていました。母は焼き芋やぜんざい甘酒などを毎日のように作つて社員に振舞つっていました。そんな両親の姿から子供は社員を大切にすることを学んだのでしよう。私は冬になれば石油コンロをストーブにしています。その火を使って黒豆やぜんざいを15リットー、またカレーも10リットーほど作り社員に食べてもらつています。多分若い社員には会長がなぜこんな料理をするか意味不明でしきりね。これも母親から影響を受けたものです。

で帰る社員にも渡すことになりました。さうに3時に帰るパートのかたにも配りました。パートの皆さんから子供が美味しいと喜んでじる耳にしたので、金曜日は2個渡すようになりました。わりに年に3回の大型連休の前日には5個ずつ渡すようになりました。最近米の価格が上がっていますが、15年前より秋田こまちを春秋各10キロ皆さんに渡しています。

伊藤会長…当社は製造業としては女性の活躍が際立つていると思います。15年前に四日市商業高校からとても優秀な一人の女学生が入社してくれました。その後14年間何故か毎年二名の成績のいい女学生が入社しています。昔と違い現在の女性は寿退社が少なく引き続き仕事を継続する例が多くなっています。男子生徒は県外の大手企業に就職する例も多いが女学生は自宅から通える会社を選ぶ習慣は当社にはありがたいです。

過去10年間で女子生徒22名、男子生徒は15名を採用しました。最近の製造業はコンピューターを使った機械装置が多く、ほぼ無人で生産できるのです。全ての工場や作業場は冷暖房を完備でしかも充分に安全が上がっています。当社は金型設計（CAD）、NC機械を稼働させるデータ（CAM）、品質管理工場管理、総務などほぼ全職種が女性ですが顧客からは高い評価を受けています。今後も年々女子の比率が上がっていくでしょう。



当社は昔も今も社員に食べ物を配ることが流行っています。昔は19時まで残業してくれる社員にパンを振舞いました。その後、定時

Q4、ホームページで女性の雇用率が高いと
いうことを拝見しました。会長の企業における
女性の活躍推進についての考え方を教えて
ください。

Q5、会長はマジックをされたと伺いました。
マジックは自身で考えられるのですか？

伊藤会長…最近海外に行く事は少なくななりましたが、以前多い時には年間100日程度出張していました。いつもの飛行時間は退屈で必ず機内にカードを持ち込みマジックのネタを考えるようにしていました。今ではカードマジックが一番得意となり200種類くらいできるのではないか。マジックというのは見る人は楽しげ、演じる者は不思議そうな顔をしている皆さんを見ることが楽しいのです。特に海外では誰でも言葉の壁があります。そんな中マジックすることによって短時間で親しくなれる事が素晴らしいです。長い間経営していますが、会社にとって良い状況になつたきっかけがマジックで知り合つた方からの恩恵であつたことは少なくありません。最近マジックから遠のいていましたが、最近若い社員に演技したところ思つてもみない感激・感動する彼らを見ました。こんなに凄いマジックを見たと友達に言つても信用しないでしきうね、と云われました。そしてその後海外や外出する時、再びマジックを持ち歩くようになりました。

Q6、金型製造を始めたきっかけは「お父様の助言」であったとお聞きしています。戦争時の爆撃機B-29の部品もきっかけであると著書で書かれていました。当時のお父様の感じた思いなどをお聞かせいただけないでしょうか？



伊藤会長…名古屋大空襲は終戦わずか半年

前頃に何度もやられました。もし一年前に終戦になつていたら名古屋は何の被害もなかつたと思えば残念です。昭和20年3月12日の爆撃は市内を中心にやられました。手に職があった父は兵役を免れ、三菱重工名古屋航空機でゼロ戦の部品を作つていたと言います。そんな中、撃墜されたB-29が御器所に墜落したのを憲兵が来る前に見に行つたそうです。残骸を見ているとジュラルミンの子部品が金型でできていたそうです。自分は材料をハサミで切り、木ハンマーで成形し、ヤスリで仕上げ、ドリルで穴を開けていた。アメリカの金型による製作なら俺の100分の1の時間でできるだろう。この戦争は絶対に勝てないとその時思つたそうです。当時、彼は網を織る製網機械を製作

する技術屋でした。そして終戦の年に製網機の部品と機械の修理からはじめました。しかしその時からB-29のことが忘れられずいすれは金型を作りたいと思つてしました。それが実現したのは私が大学を卒業する一年前の昭和39年でした。自分が自慢できる漁網機械の仕事を息子に継がせたいと思うのが親心と思っていたが、私に一切それをさせなかつたし、お前は金型を作つてくれと言つたのは今でも不思議に思つています。半世紀が過ぎ高度な技術を手にした現在、お陰で私や国内外の社員は良い生活が出来るようになりました。

Q7、子供たちに本を読む機会を与えるために、四日市市内の小中学校、及び、県立高校への図書費の寄付をされているとお聞きしました。寄付をされるに至つた経緯を教えてください。

伊藤会長…学生の頃、私は理数が好きで国語の成績はすつと3でした。大学生になつてアパートに住むようになり多くの本を読みました。その中で良い本に出会いました。元海軍航空隊の坂井三郎氏の著書「大空の侍」と小田実氏の「何でも見てやろう」でした。この本は何度も読み返し本当に感銘を受けた本でした。坂井氏の影響は大きく25年後にパイパー・エロキーと言う米国の中飛行機を操縦するまでに至りました。又、小田実氏から影響を受け海外に興味を持ち、

35年目にはフィリピンに会社を設立するきっかけとなりました。これほど素晴らしい影響のある本をなぜもっと早く気がつかなかつたのかを後悔しました。

6年前、四日市市長と建築会社の社長と食事をする機会がありました。「今の子はスマホばかり使い、あまり本を読んでないみたいだね。」するとP.T.Aで活動している社長から、「毎年予算が足りないから父兄の力ンパに頼つていの」と言いました。私は市長に「将来を背負う若者には本の予算をケチつてはいけないよ」とお願いしたところ返答に困っていました。「それなら私がやろう」と言つたことで、四日市の小中学校59校に4年前から寄付しています。今年から県立の12高校にも寄付をさせていただくようになりました。四日市から立派な若者が育つことを期待しています。

Q8、東海ラジオの番組「伊藤澄夫の天下の一大事」で、伊藤さんは乗り物が大好きであることをお聞かせください。

伊藤会長…ハイ。私はさらにロケットと潜水艦に乗りればこの世の乗り物は全部乗ったことになります。70年近く前、14歳の時従兄弟が経営する会社に4トントラックがありました。会社の前が砂利道で従兄弟に「乗つてみるか」



と言われて飛び上がって喜びました。当時の車はギアエンジンが難しくギリギリ音が出てなかなかギアエンジンができなかつた。5分後にアクセル・ワークで上手く入るようになつたことで従兄弟はびっくり。それ以来車に病みつきとなりました。会社で車の部品を製作している関係で今までにトヨタ車を中心に50台近く乗りました。ある時期にはスーパーカーにも憧れましたが、今はボンバルディア社(カナダの飛行機会社)の子会社で生産する三輪バイク(1350CC)で遠乗りを楽しんでいます。

Q9、障がい福祉が抱える課題は多くあります。会長のお考えをお聞かせください。

横山理事長…私たちは地域社会との「共生の実現」を目指しており、「障がいがある無しに関わらず、共に社会の一員として生活する」と日々努力していますが、なかなか目標には至っておりません。私どもの今抱えている大きな問題として、「8050問題」というものがあります。親御さんが80歳、障がいのある子どもが50歳で在宅介護率が95%と言われています。100人いましたら、その内の5人は施設に入り、95人は自宅で親御さんが面倒を見ているのです。これは日本の古くからあるもので、障がいのある子どもを家で隠して育てるということです。今では福祉施設が増えてきましたので、施設を利用される方が多く



なりましたが、海外に比べると日本の福祉は約20年遅れていると私は思っています。

伊藤会長：実際によく困っている障がい者の方は多いと思います。ちょうど先日YouTubeで似たような関連のニュースを見ました。ヨーロッパでは日本でいう施設などは少なく、利用者さんの自宅まで訪問して支援をすることが多いという話でした。日本からしたらそれは贅沢に聞こえますが、ヨーロッパからするとそれは違うそうです。100人の利用者さんが過ごせる施設を作ろうと思うと、建物費や光熱費、修繕費、さらにはそれに人件費がかかります。それなら人だけを雇い、建物費などはかかりずに、その家に訪問するだけのほうが安いのだと。施設を建てる贅沢なことはしませんと言つていきました。

ですが、実際に自宅に訪問してできない事もあると思うのです。やはり施設に居ていた方や、少ない人材で多くの利用者さんの支援ができる部分もあると思います。

横山理事長：私どもの企業理念として「親亡き後の「生涯支援をおまかせください」とコミュニケーションしています。伊勢亀鈴会の若手にも会長の著書を読むなどして、海外に負けない新しい福祉を作つてもらいたいと考えています。会長の考えがあれば、お聞かせください。

伊藤会長：全国的にも障がい者施設に十分な補助金が出ていない現状があると思います。その部分について以前から考えていたことがあります。日本の企業がもつと積極的に障がい者の施設に仕事をまわすべきだと思います。以前に鈴鹿の知り合いに聞くと、時価200円ほどで仕事をしてもらつていると言つていました。そんな安い金額ではだめだと思います。最低でも500円は出さないと、利用者さんのためにはなりません。伊藤製作所でも今後そういう仕事があつた際には、是非ともお声掛けさせていただきます。今はそういった仕事がないので、利用者さんが一生懸命作ったわくわくジャムを購入させていただきます。それを社員の福利厚生にあてさせていただいて、一回きりではなく、今後も定期的な購入を考えています。それを情報発信することにより、福祉に協力的な考えが増えしていくと嬉しい限りです。

お忙しい中、お時間をとつていただき、重ねてお礼申し上げます。今回のインタビューは、弊誌にとって大変貴重な財産となります。
社長のお言葉にもありました、「社員を大切にする」気持ちを忘れずに、伊勢亀鈴会は今後も更なる努力をしていきます。今回はインタビューを受けていただき、本当にありがとうございました。





元気の秘訣は何？

南勢就労支援センター 田中倉子さん

今回紹介するのは、南勢就労支援センターを約17年利用いただいている御年81歳の田中倉子さん。

一度、体力の限界と令和2年（2020年）に退所され老人デイサービスを利用させていたが、「やっぱり通いたい」と令和3年（2021年）に再開いただき、令和7年現在、元気に週5利用いただいている。

ツバ取り作業は若い利用者さんに任せて、施設の環境整備にお力を注いでいただいている。作業で使用した軍手は、洗濯機では落ちない汚れも多く、その汚れを手洗いで洗浄されたり、施設前慰靈碑の清掃作業をすんで取り組まれている。暑くても寒くとも慰靈碑の清掃に取り組まれる姿に、その熱い想いはどうしてなのかと伺うと「昔に福本さん（故人・元南勢利用者さん）と70歳まで通おうって約束してたの。彼は68歳で他界してしまったけど、ここ（慰靈碑）にいるから、綺麗にしてあげたくて」と。

同年代の方だけでなく、若い南勢の利用者さんとも楽しく過ごす事が元気の秘訣なのか、運動会や日帰り旅行などにも積極的に参加されている。シルバーカーを押してはいらっしゃるが、足腰の衰えもほとんど見られず、歩くスピードも元気さにあふれている。「無理したらあかんよ」や「体調大丈夫？」と職員へも気遣いされ、懐の深さと年齢を感じさせないパワフルさを学ばせていただく毎日である。

「85歳まで利用して欲しいって言われるの」と話されているが、わたしたちが倉子さんの年齢になつた時に元気に働けていたるか？と自問自答すると、ただただ尊敬しかない。

今年は芸術文化祭に向けて得意な編み物作品を出そつと目標も持たれ、日々元気に過ごしていただいている。



いちご、たくさん食べたよ♪



軍手、綺麗になったよ！



得意な編み物です



わくわくジャム

私は、2014年4月より、ジャム担当として、主にジャムの加工作業に従事しております。

まずは、私たちが作っている「わくわくジャム」の安心と美味しさの3つの理由をご紹介させていただきます。

①優しい砂糖といわれる「てんさい糖」を使用し、糖度40前後の低糖で無添加材料のみで作っていますので、お子さまからご年配の方まで安心してお召し上がりいただける。

②果肉のゴロゴロ感を残し、もぎたての果実のようなフレッシュでジューシーな風味と食感が味わえる。

③地元、三重県産ブランドにこだわり、旬の果物を使用している。

季節限定でいろいろな種類のジャムを作つており、単品でも季節を楽しむことが出来ますが年4回に分けて、その季節の旬の果実で作ったジャムと二ンジンジャム17種の内、ランダムに13種をお届けするわくわく定期便もご用意しております。

今は旬を迎えるいちごの入荷が多く、加



第2南勢就労支援センター
ジャム担当 加納早由里

お届けしたくて何度も丁寧に灰汁をとり、いちごの形を残しつつ、水分を飛ばして、とろみをつけているので、一度ご購入いただき是非、いちごジャムのきれいな赤色を見て、果肉のゴロゴロ感を感じていただければ幸いです。

本年度は新たに1名の利用者さんを迎えて明るく・楽しい雰囲気で作業・販売をしていきます。

わくわくジャム販売を見かけた際は、是非ともお声掛けください。元気いっぱいのジャム販売メンバーが笑顔でご対応させていただきます。

合言葉は「お・い・し・く・な・あ・れ」



令和6年度八野芸術文化祭 表彰式 開催

3月14日金、13時30分、デイルームにて八野芸術文化祭表彰式が、明るく和やかな雰囲気の中で行われた。

今回の芸術文化祭には、入所、通所、URAURA八野の利用者さんが日々取り組んできた絵画や工作、書画、組紐などバラエティ豊かな作品が多数寄せられ、それぞれの個性と感性があふれる素敵な展示となつた。

表彰式では、特に優れた作品を制作された利用者さんに、表彰状と記念品が贈られた。受賞された利用者さんは緊張した面持ちの中にも、喜びや達成感を感じて居る様子が印象的だつた。受賞者の皆さんは左記の通り。

最優秀賞	原佳紀	(組紐)
理事長賞	田中陸	(絵画)
伊藤本部長賞	中井秀美	(絵画)
田辺本部長賞	葛西英治	(陶芸)
奥村本部長賞	川戸敏則	(節分のお面)
中村本部長賞	宮崎加奈子	(書道)
中前施設長賞	豊田徳尚	(絵画)
URAURA参加賞		
URAURA出展者全員		

最後に、利用者さん全員で「贈る言葉」を合唱し締めくくつた。今回の芸術文化祭を通して、利用者さん一人ひとりが自信を深められたこと、また施設内にたくさんの明るい笑顔が生まれたことが大きな成果となつた。今後も、皆さんのが自由に自己表現できる機会を大切にしたい。



受賞作品



展示作品(3)



展示作品(2)



展示作品



田中さん



伊藤さん



田中さん



開会式挨拶



開会式



川戸さん



原さん



中井さん



「贈る言葉」合唱



理事長選考中



最優秀賞
組紐

放課後等ディサービスUR_AURA

どうぶつ見学ツアー

UR_AURA八野

5月17日㈯、雨上がりの午後に、松阪市のタケガワ「ふれあい動物園」に出かけた。ここはロバやヤギ、ブタやウサギ、ポーイやロバ、二つトリや亀など、様々な動物が自由に過ごしている小さな私設動物園だ。動物達が間近で見られるつぶに一部の動物とは触れ合う事もできるのでみんな興味深々。ヤギでキ shinながらふれ合つたり、近くでじっくり観察したり。短い時間だったが動物たちの可愛さを満喫でき、樂しげひと時を過ごせた。



フクロウのモーリーちゃんもお出迎え



ヤギやポニーのすぐ横を進みました



3種類のカメがいるんですって



ウサギと飼育員さんと触れ合いタイム



おそるおそる触れ合ってみる



ウサギがかわいすぎる♡

5月17日㈯の活動は、電車に乗つて目的地に到着するまでの「乗車体験」に挑戦した。スタート地点は近鉄津駅。1人ずつ乗車券を貰つと少から始めて、改札を通り駅ホームへ。白線の内側に一列で並んで待つことや乗る時は先ず降りる人が先など、乗降の際のマナーを学び実践した。車両に乗り込むと落ち着いて着席でき、車窓の風景を楽しむ余裕もあった。目的地の白子駅が近づくと「お家が見えた!」「小学校だ!」など大喜びの様子もみられた。



時刻表を確認することからスタート



ぼくはどの電車に乗るのかな?



電車に乗るのは楽しいよ



津駅は大きいね~



並んで座れたので良かったです

電車に乗つて「ゴー!」

UR_AURA稻生

「生涯学習」、始まる

八野就労支援センターは、今年度4月より新しい活動の取組みに挑戦している。生涯を通じて学び続けることで、心豊かで充実した人生を送ることを目的とした「生涯学習」である。

4月は「ボッチャ」、「朗読」、「漢字検定」の3科目が設定され、月2回、平日の1～2時間に専門の講師を招いて学習する。

各作業場から立候補された利用者さんが、それぞれの科目を通じ、自分が持つている表現力やスキルを如何なく発揮されていた。いつもは真剣な表情で作業に集中し、あまり笑顔も見られなかつた利用者さんも、「え？こんな一面もあつたの？」と、職員も驚かれる場面が多く見られ、改めて利用者さんの持つ可能性に期待を抱く結果となつた。

5月からは「フライングディスク」が追加され、最初は参加に消極的だった利用者さんも、自分も参加したいと希望されるまでになつてきた。

今後の目標について、ボッチャは、大会に出場し、1勝を挙げること、朗読は福祉施設への訪問し、朗読を披露すること、漢字検定は、検定試験への挑戦し合格すること、フライングディスクは、大会に出場し、全国大会へ進むなど、それぞれの目標を持って活動に取り組み、社会参加への促進も行つていきたいと考えている。



まずは10級からスタート「漢字検定」。簡単な漢字だけど、ちゃんと書かないと×になる

チームプレイが大切！「ボッチャ」



大会が5月末に開催される「フライングディスク」

宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を感情をこめて読む、「朗読」

防犯教室で、 自分の身を守る事を学ぶ！



真剣に聞こう



詐欺に注意



犯罪って怖い

最後に鈴鹿市では自転車等の窃盗事件が多発しており、自転車に乗っている利用者さんもいることから、充分に注意喚起をしてもらつた。

今一度職員含め利用者さんと一緒に、詐欺や窃盗に関する勉強会を開いていきたい。

5月23日(金)、鈴鹿警察署生活安全課の方をお招きし、近年ニュース等で騒がれている「特殊詐欺等の犯罪被害から身を守るために」という講義をしてもらつた。闇バイトの問題では、良かれと思って一度関わると逮捕されるまで抜け出せないと教えて頂き、利用者さんも「怖いわ～」「絶対分からんよな～」と声が上がっていた。各種詐欺被害に遭わない為には、まず、おかしいなと思ったら身近にいる人に「相談する」そして、「確認する」ことが大事だと教わった。

最後に鈴鹿市では自転車等の窃盗事件が多発しており、自転車に乗っている利用者さんもいることから、充分に注意喚起をしてもらつた。

かざはやの里では、四季折々の花を見る事ができ、梅やふじ、紫陽花が咲く。

今年はふじの花の開花が早く、日頃の皆さんのがいも良かつたのか、ベストなタイミングで来園することができた。きれいにふじの花が咲き誇り、別の場所ではネモフィラの花が色鮮やかに広大な土地を彩つていた。

これからも、四季を感じ、心身ともにリフレッシュしていけるような活動をみなさんと楽しんでいただきたいと思つ。



鬼滅の刃みたいだね

かざはやの里に行つたよ



ハイ、ちーず!



仲良し3人組



満開～

南勢就労支援センター

とっても美味しかった!!

今年のGWは天候にも悩まされた3日間の活動でした。5月2日㈮は手打ちうどんに初挑戦!小麦粉に水を少しづつ入れ、こねないようにパラパラにしながらひとまとめにし、袋に入れて15分寝かせたのち、生地を足で順番に踏みこんだ。

その後1時間ぐらいい寝かせるため、その間に昼食タイム。昼食後も、うどんの話題でもちきりだった。午後、袋から出し、ワクワクしながら麺棒で伸ばし、包子で裁断。包子使用中は言葉もなくみんな集中して取り組んだ。裁断した生地をゆでて、出汁と刻み葱、天かすと合わせて試食!!不揃いの麺、きしめん以上に太い麺もあったが、「おいしい!!」と全員が満面の笑みで完食だった。美味しいだけでなく下準備の大切さ、完成までの工程を学んだ。



麺棒チャレンジ



ドキドキ♪



いただきまーす♪



真剣に麺切包丁体験

波の音、白い砂浜に癒されて



真剣に選んで作ります♪



私の作品どうかな?

5月5日㈪、明和町大淀にある「大淀西海岸ムーニビーチキャンプ場」に出かけた。

海岸で貝殻拾いをしたり、釣りをしたり、砂浜に寝そべったり、⋮々々砂浜でまつたりと楽しんだ。

午後からは拾った貝殻でフレームアート作り。貝をダイナミックにアレンジしたり、キラキラ色の貝を丁寧に並べたりして、素敵な作品を完成。

保護者様からも「素敵な作品で癒されました」と感想をいただいた。

第2南勢就労支援センター

「体験活動」

日帰り旅行での電車利用へ向けて、体験活動にて、電車移動訓練を実施。

斎宮駅にて時刻表・松阪駅までの金額を確認される。切符を購入し、駅の中へ電車を待つ間ヒソヒソと楽しそうに話されている声が聞こえた。電車に乗り松阪駅に到着。事前に話し合った場所へ携帯のナビを使用して向かう。決められた金額の中で、昼食・おみやげを購入したり、近くを散策したりと各班で決めたコースを回られる。

班によつて暑い日や雨の日があつたが、非日常感の体験だったので作業中では見ることが出来ない素敵なかみ顔でいっぱいであった。



松阪駅到着 何食べる？



とばしまメモリーが来たよ



食後のデザート☆



いただきま～す!!



城攻めの相談



裁判所に来たよ!!



松阪城見学

宮の里ミタスメモリアルホーム

生け花



自然と笑顔になる花

昨年から生け花講師による生け花教室を開始。ひとりひとり真剣な表情で季節の花々と向き合っている。自分の理想を思い浮かべながら、どの花を中心据えるか。

「柔らかさと力強さの調和」と空間（バランス）を意識して自然の花々をそのまま生けた。ふんわりと広がる花びらの中に、初夏のやわらかな陽ざしを想像され心がほぐれたのか、皆さんが自然と笑顔になられた。

今後も、見ていてただく方々の心に寄り添えるような作品づくりに取り組んでいきたい。



白い花をメインに生けよ～



どこに生けようかな～



お花生けるの得意♪



色とりどりに花を上手に生けたよ～



完成★

二見生活介護支援センター 潮音

いちご狩り

この時期にしては少し冷たい風が吹く3月13日㈭。松阪市にあるハッピー農園へいちご狩りに出かけた。

「寒い」と、身を縮めながら左手を歩き、たどり着いたビールハウスに入る。「は、暖かぶり氣の中、真つ赤に熟したいちごがたべてみたい」とは、暖かぶり氣の中、真つ赤に熟したいちごがたべてみたい下がっていた。その光景に職員も利用者さんも「えへ、美味しいわ」と、待ちきれないと。いちご狩り。自分の手でひとつ食べると、大きけれど丸くてかわいいのが、思わずについついつしながら、がぶつと一口。ジュワッと甘い汁が口から漏れだすほどみずみずしい。とても新鮮ないちごに大満足。

いちごを摘み取っては、「はい、どうぞ」と、配り始める方や車椅子を回され、自分のペースで楽しまれる方。何個?何十個?数えきれないほど食され、「もうお腹いっぱい」「もう満足した」という声と「まだ食べるの?」職員も驚くほどいちごが大好きな方。あつといつ間に時間終了。



苺だ、いえーい!



ぱくっと一口



おいしかったよ!

子が囁いた。

出店店舗も多く、飲食はむちむち消防車、警察のパトカー、白バイなども来ていて、お子様たちのキッキラした表情も見られ、ふれあい広場にはたくさんの笑顔があふれていた。

10時～13時30分の約3時間半はあつといつ間に過ぎ、祭りあとを寂しく感じられる様子もあったが、帰る際には「また来年!」と皆さんが声をかけてじるのを見た。明るく、おた来年の開催を心待ちにしたことを感じた。



ふれあい広場写真

ふれあい広場

5月11日㈰、晴天に恵まれ去年から再開されたふれあい広場では地域の皆様が沢山見えていた。その日の潮音利用の利用者さん全員も参加し、楽しめ、ポップコーンと縄跳子の振る舞いに嬉しそうな表情をされ、以前から交流ある方や、懐かしい友人とも会えお話を絶えないと楽しまれていた。また昨年潮音にて周年祭のイベントで歌謡ショーを披露して頂いた「城エリナさん」をはじめ、地域のボランティアの方々のステージショードに来場された方たちは一緒に歌い、また一緒に踊り、それぞれの時間を楽しめている様子が囁えた。

出店店舗も多く、飲食はむちむち消防車、警察のパトカー、白バイなども来ていて、お子様たちのキッキラした表情も見られ、ふれあい広場にはたくさんの笑顔があふれていた。

伊勢亀鈴会「伊勢市障がい者サポート企業・団体」として新たに認定

音楽療法

伊勢市では、障がいの有無にかかわらず、だれもが自分らしく暮らせる共生社会の実現を図るため、障がいに対する理解を深め、配慮を実践する「障がい者サポート」制度の推進に取り組んでいる。(現在、既に市内29の企業・団体が認定されている) 伊勢亀鈴会は、障がい者を積極的に雇用するとともに、社会的事業所を市内で運営し、市の庁舎や公共施設の清掃など障がいのある人が能力を発揮できる場所づくりにも取り組んでいる。今回「伊勢市障がい者サポート企業・団体」の申請を行い、令和7年4月4日(金)、「伊勢市障がい者サポート企業・団体」として新たに認定され、市長から認定証を授与された。



発表にあたり「感覚的に判断をしていたものを言葉にすること」にはとても苦戦をしたが、共通認識となるものを作れた達成感はとても大きな経験となつた。



会議中の様子

伊勢亀鈴会では平成27年から音楽療法に取り組んでおり、音楽療法士による個別およびグループセッションを通じて、運動機能の維持・向上、感情の表現や「ミュー ケーションの促進を目的に、一人ひとりの状態やニーズに応じたプログラムを実施している。

3月9日(日)、愛知学院大学名城公園キャンパスにて行われた「第18回日本音楽医療研究会学術大会」に、音楽療法PTメンバーが参加した。

音楽療法のご指導をいただいている佐藤先生(国立長寿医療研究センター・医師)の研究会で、音楽を治療として用いる方法を考える会として発足されたものである。医療・福祉機関、音楽関係者をはじめ、教育・理学・工学など幅広い分野の方が年に1度集い、事例研究発表や情報交換が行われている。今回、音楽療法PTからは「音楽療法における導入基準の明文化」について、八野生活介護センターの木村心理士が発表し

北勢地区八野通所保護者総会

4月19日(土)、八野

通所保護者総会を開催した。

八野生活介護セン

ターナー7名、八野就労

支援センター23名、

きれいサポートス

テーション21名の保

護者様が出席された。

オープニングでは利

用者さんと保護者様

によるピアノの連弾

を披露。理事長挨拶

の後に総会開始。

総会後は各事業所

に分かれ、施設の概

要、職員の紹介、日

常や行事の利用者さ

んの様子や施設の取

り組みを伝えた後に、

質疑応答の時間を設

け今後の支援等につ

いて話し合つことができた。



理事長のご挨拶

ピアノの連弾の様子

宮の里保護者会

5月10日(土)、入所保護者会を開催。

当団は、13名の保護者様と横山理事長にご出席いたしました。

法人の理念

の一つ「自己

実現」につい

て昨年度の成

果発表(保育

園で園児さん

に紙芝居を披

露したい・お

孫さんに手作

り絵本をブレ

ゼントしたい)を利用者さんの潮田美

奈子さんと細江かおりさんにしていた

だいた。

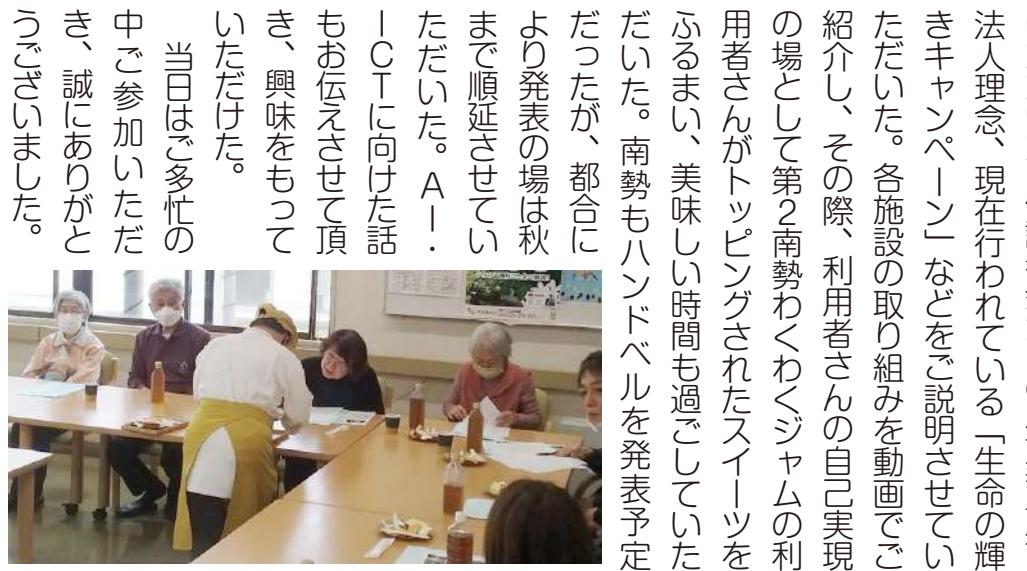


プレゼントした手づくり絵本を披露

南勢・第2南勢保護者会

5月10日(土)、南勢・第2南勢の保護者会が開催、多くの保護者の皆様にご参加いたしました。保護者会からの収支報告後、

法人理念、現在行われている「生命の輝きキャンペーン」などをご説明させていただきました。各施設の取り組みを動画でご紹介し、その際、利用者さんの自己実現の場として第2南勢わくわくジャムの利用者さんがトップピングされたスイーツをふるまい、美味しい時間も過ごしていただいた。南勢もハンズベルを発表予定だったが、都合により発表の場は秋まで順延させていただいた。A-I-1-CTに向けた話もお伝えさせて頂き、興味をもつていただけた。



トッピングしたスイーツをふるまう

9施設合同大運動会

5月24日(土)、第19回保護者参加型合同運動会を津市芸濃町総合文化センターアリーナ体育館にて開催した。

開会式に続き、ダンシング玉入れや車いすリレー、時間差大玉転がし、借り物競争を行い、利用者さん・保護者・職員が一体となって盛り上がった。競技中は笑顔と歓声があふれ、応援にも熱が入り、会場全体が温かい雰囲気に包まれた。昼食には栄養バランスの取れた美味しいお弁当を味わいながら、参加者同士の交流も深まり、楽しいひとときを過ごした。最後は表彰式と閉会式を行い、頑張った皆さんのお活躍を称え、参加者全員での記念撮影で、笑顔あふれる一日を写真におさめて締めくくった。参加者一人一人が達成感を得て、心に残る充実した一日となつた。

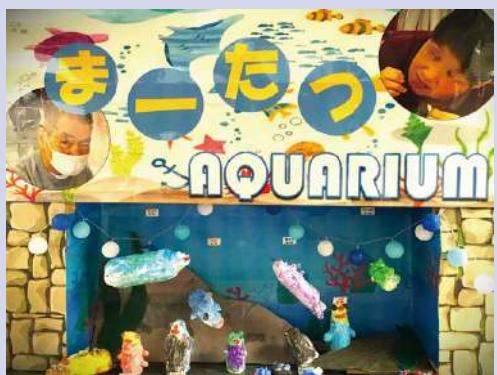


大きな声で選手宣誓☆



各施設の力作が勢ぞろい！是非ご覧ください。

きれいアートギャラリーでは利用者さんの作った物、書いた物など作品を紹介していきます。



日中バージョン



イルミネーションバージョン
夜になるとこんなにきれいに見えるよ！



潮田美奈子さん



「♡の木」
生活クラブのみなさん



「感謝」
生活クラブのみなさん

きれいかいの動き

新職員紹介

きれいサポートステーション

南勢就労支援センター



磯田 純哉



角 真伍



藤原 仁



井口 理

宮の里ミタスマモリアルホーム

二見生活介護支援センター潮音



看護師
山口 ひとみ



奥西 美紀



上村 正彦

※掲載中の写真におけるマスクの取り外しについて

各施設とも感染症対策のため、マスク着用は徹底しておりますが、一部の記事ではマスクをしていると表現が伝わらない部分もありましたので、マスクを外して撮影させていただきました。ご協力ありがとうございました。

ご寄付をいただきました。 ありがとうございました。

ご寄付 2025.3.1~2025.5.31

法人

今枝清子様 八野就労利用者様ご家族
在間敏明様 鈴鹿社会的施主様
服部ゆかり様 鈴鹿社会的施主様
中江島町自治会 山口様
株式会社アスト 柴田友美様 鈴鹿西ロータリー会員
前田真紀子様 潮音保護者様

福祉葬祭三重

真宗高田派 法流寺様
真言宗醍醐派 一心寺様
真宗高田派 淨運寺様
真宗高田派 法林寺様
曹洞宗涌金山 養泉寺様
浄土真宗本願寺派 西方寺様

編集後記

本号の編集長を務めさせていただきました、八野就労支援センターの天野です。

初の編集長ということで戸惑うこともありましたが、頼りになる編集委員の方々の協力を得て機関誌を発行することができました。

今回の編集に関わってくださった皆様ありがとうございました。

ボランティアさん募集!!

八野生活介護センターと宮の里ミタスマモリアルホーム、二見生活介護支援センター潮音では、昼間ボランティアさんの趣味・特技を活かし利用者さんと一緒に活動していただける方を探しています。

現在、俳句・読み聞かせなど、ボランティアさんに来ていただける方が、利用者さんと娯楽(卓上ゲーム等)・園芸・話し相手など気楽に接していただける方も募集しております。

ご希望の方は、ぜひ一度各施設までお問い合わせください。

問い合わせ

八野生活介護センター 担当:高田 TEL059-378-8881
宮の里ミタスマモリアルホーム 担当:澤 TEL0596-58-5030
二見生活介護支援センター潮音 担当:倉田 TEL0596-72-8822

